農村開発・環境保全

ボルール村でアグロフォレストリー再挑戦
－　住民組織化を学ぶ機会にも　－

今年度の対象は、ボルール村の中でもより山深いところにあるオロムラオとオロクロフェの二つの地域で、急傾斜地の耕地化による土壌侵食が激しい地域です。対象世帯数は30を予定しています。

両地区は７年前にも小規模アグロフォレストリーを実施したことがあります。事業のパートナーはCMIPでした。環境保全より収入向上を目的とし、対象も意欲ある10世帯をモデルケースとして選びました。必ずしも急傾斜地の畑を選択しての実施ではなかったため、地滑りや土壌侵食防止が目的ではありませんでした。当時植えたココヤシは、すでに実を結び、干ばつの今年は貴重な食材になっています。(写真)

当時、CMIP農業担当スタッフとして研修指導に当たったのが、MSU農業科を卒業して間もないボニファシオです。今は、毎回現況を伝えているボルールの元奨学生が組織した住民組織BOSDAの農業指導者になっています。2014年度の事業実施では、BOSDAリーダー間の対立、活動停滞がありました。本事業「傾斜地農法によるビラーンの村の自立推進事業」では、私たちの協働相手として選んだPFPに、ボニファシオへの技術指導法、住民組織運営法の指導もお願いしています。

2014年のBOSDA事業で、会計担当だったミエルナも、本事業では、PFPの経理担当のヴィヴィアンさんの助手として事業会計を学ぶ予定です。

なお、今回は土壌流失防止に効果のある竹の苗も植えます。ボル―ルの住民、特に女性たちは、今もバーベキュー用竹串作りを副業としていて、近隣では手が入りにくくなった原料の竹を村内で調達することもめざしています。

＊　　＊　　＊　　＊

今回も横浜の「NPO法人WE21ジャパンみどり」の協力をいただきました。2007年以来、私たちとともに、ビラーン等の先住民族の青年たちが、村のために働く姿を見守り、資金面で支援いただいています。環境保全と収入向上両面でのよい報告ができたらと思います。

ウボ民族とチボリ民族の村エルアリスでも30ヘクタールで、アグロフォレストリーを実施

SCMSIのメインセンターがあるレイクセブ町中心部から、南西方向に向かって、車で40分ほど坂道を登っていくと、バランガイ・タクネルのシチオの一つ、エルアリス（標高1200m）があります。一番近い公立小学校までは1時間以上かかるため、低学年の児童は、元SCMSIデコロンハイスクール校長のアニータ先生が運営する先住民族学校(Indigenous Learning School）に通っています。

この地域の住民のうち、土地を抵当に入れていない20世帯を対象に、ゴム苗木1,200本、コーヒー苗1,000本等を植えるほか、急傾斜地には3,000本のラワンやナボル等の在来種の苗木を植えます。

他の事業と同じく、なぜ斜面でのコーン単作が土壌流出など環境を破壊するか、どのような植え方、手入れをすればよいかなどの理念、技術研修も重要で、この４月から１年間、現地パートナー、PFPと協力して事業を行います。(イオン環境財団助成)

環境と収入向上のためのアグロフォレストリー事業実施には、実施中少なくとも年３回、事業終了後も収穫があるまで、長期にわたる事業モニターが必要です。

現地モニター要員が足りません。ご関心ある方、当事務局までお問い合わせ下さい。

タウォル・ボロウ地区とタケヨン地区、２件のアグロフォレストリー進捗状況（写真報告）

「緑の募金」の助成で実施してきた計100ha 余りのラムダラグ村の３年継続事業３年目がこの６月に終了します。最後の対象地域タウォルとﾎﾞﾛｳでは、苗木周りの除草作業真最中です。

三井物産環境基金助成によるタシマン及びタクネル村2年目の事業は、タケヨン地区の30haで実施中ですが、干ばつが長引き、苗木移植はまだ始まっていません。住民たちは雨を待ちながら、整地作業に汗を流しています。